

園池製作所労働争議

緒言

一	軍用金にマスク製造	(一一)
二	不誠意なる態崎事務	(一三)
三	「長」階級の醜惡な態度	(一四)
四	意思の薄弱なる人々	(一五)
五	示威運動の演説會	(一五)
六	溢るゝ同情と義金	(一六)
七	職工團籠城の會計	(一七)
八	凱歌を擧げた委員	(一八)
九	工場閉鎖の弱點	(一九)
一〇	産業民主の大精神	(一九)
一一	結論	(二〇)
一二	嚴正非中立の宣言	(二一)

大正九年一月九日、園池製作所に於て漸行した工場閉鎖が必然の結果として労働争議を生んだ、あらゆる意味に於て從來の労働争議と著しく異つた特徴を有するものであつた事は、天下の等しく認むる所である。

然らば其特徴とは何、曰く産業民主の精神が積極的に發現した事である。而して我が東京毎日新聞社が終始此運動に關係して職工組合の行動を扶助し、労働戦をして良く當初の目的を完成するに至らしめた所以のものは、又實に此精神の實現が日本の労働運動史上に一新紀元を劃するものなる事を確信したるが爲めである。

知る可し、今回の労働争議に顯はれたる自覺したる労働者の積極的運動が美事に效を奏して労働争議が部分的の改造運動でなく直ちに資本主義の滅亡を物語るものである事。此意味に於て園池製作所の労働戦は日本將來の労働運動が其行かんとする方向と目的とを最も明瞭に最も端的に暗示したるものと言ふ可きである。而して本社が今茲に争議の内容を概述し、其進展の輪廓を明示して之を江湖に頒布せんとする所以のものは實に此傾向を看取する事が日本の労働運動を合理的ならしむる第一の方途なる事を信じて疑はざるが爲めである。